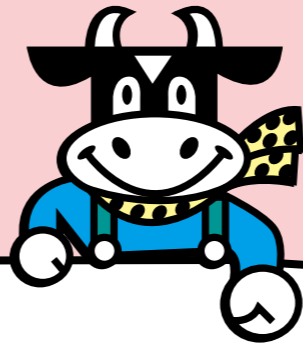




ワンポイント・アドバイス



消毒の大切さ

感染症にかからないために

家畜の健康維持や、食資源の確保、食の安全を守るために、感染症を制御することはとても大切です。感染症による経済的損失は大きく、それらはできる限り未然に防ぎたいものです。感染症の予防には①感染源をなくす、②感染経路を絶つ、③家畜を強くする必要があります。②では検疫の設置、閉鎖的な飼育、③ではワクチン接種などがありますが、今回は①の感染源をなくす対策の一つとして消毒について考えましょう。

消毒とは？

消毒とは微生物の数を減らすための処置をいい、それらの感染力をなくすことを目的とします。消毒には加熱（火炎、

煮沸）、照射（日光浴など）、ろ過などの物理的な消毒と、化学薬品（消毒薬）を使用した化学的な消毒があります。

消毒薬の種類

消毒薬には様々な種類があります。代表的なものを挙げてみました。

- 蛋白質変性剤…アルデヒド類（ホルマリン）、フェノール類（トライキルの成分の一つ）
- 酸化剤…塩素類（ビルコンS）、ヨウ素類（ヨードチン、イソジン）、オキシドール
- 有機溶剤（脱水）…アルコール類（イソプロパノール、エタノール）
- 界面活性剤（酵素阻害）…逆性石鹼（パコマ、ベッセルサニー）、両性石鹼

消毒薬の効力に影響を与える因子

- 対象微生物の種類…界面活性剤やグルコン酸クロルヘキシジンはウイルスには効力を示さない場合があります。
- 作用濃度…適切な濃度で使用しなければ効力を示さない場合があります。
- 作用時間…消毒薬にさっと浸すのではなく、ある程度の時間作用させなければ効力を示さない場合があります。
- 作用温度…高温ほど消毒作用が強いのが一般的ですが、塩素類やヨウ素類では逆に効力が消失します。
- 有機物…塩素類、ヨウ素類、界面活性剤の多くは糞便等の有機物が入ると効力が著しく低下します。そのため長靴の消毒は、まず十分に糞便を落としてから消毒薬に浸す必要があります。逆に、消石灰やフェノール類、アルデヒド類は有機物の影響を受けにくいいため畜舎の消毒等に適しています。

- pH…多くのヨウ素類は酸性で効力が増強される一方、界面活性剤の多くはアルカリ性で強い効力が得られます。
- その他…動物体や手指への刺激が少ないものとしてアルコール類、ヒピテン、界面活性剤、低濃度のヨウ素類などがあり、パコマやイソジン等がよく使われます。逆に、消石灰は非常に強いアルカリのため刺激性が強く、粉が目や気管に入らないよう使用には十分注意が必要です。

おわりに

消毒薬には様々な特徴があります。熱湯でビルコンを溶かしたり、歩くように消毒槽を通るだけでは消毒効果は十分には得られません。また、糞便の入った消毒槽では十分な消毒はできません。さらに、消毒薬の多くは刺激性が強いため、直接触れると肌が荒れてしまうことがあります。間違った消毒をしないためにも

- その他…グルコン酸クロルヘキシジン（ヒピテン）、消石灰など



自分が今使用している消毒薬の特徴を知ることが非常に重要です。それぞれ、お持ちの消毒薬のラベルを見返して、適切に使用できているか再確認してはいかがでしょうか。

